



「Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン(素案)」の説明

日 時：令和7年（2025年）7月29日（火）
説明者：札幌市まちづくり政策局政策推進担当課
阿部 勇士

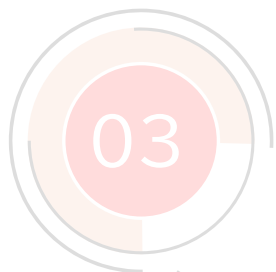




第1章 策定の背景と目的



第2章 目指すまちの姿



第3章 具体的な取組、手法

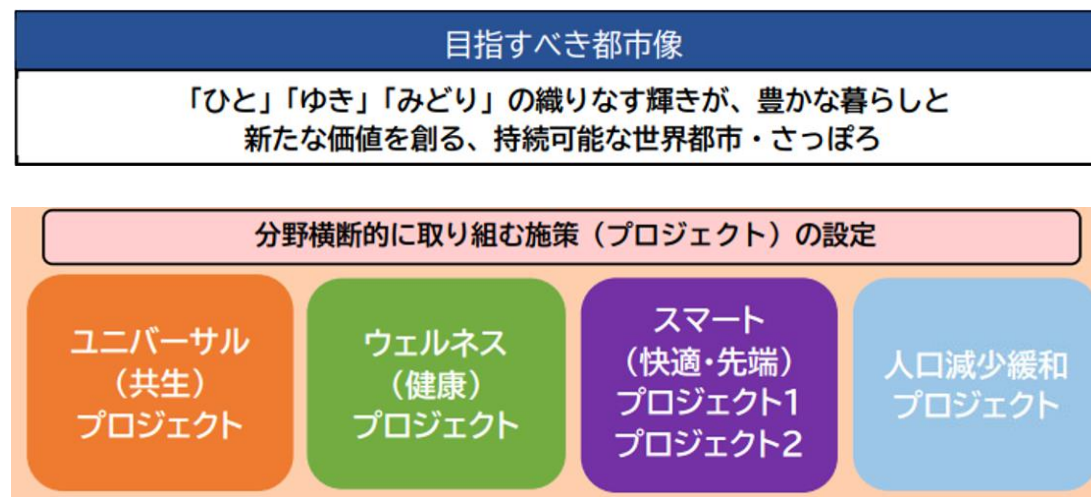


第4章 推進体制、支援策

- ◆ 近年、世界的に都市空間を車中心から人間中心へと転換させる取組が進展しており、国内においても、現在392都市が「ウォーカブル推進都市」として登録
- ◆ 札幌市の長期総合計画「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」においても、重要施策として「ウォーカブルシティの推進」を明記
- ◆ 人口減少による都市機能の低下など様々な課題に備えつつ、これまで以上に都市空間の持つ多様な価値に着目し、質的向上を図っていく必要がある



札幌市の長期総合計画(令和4～13年度)



プロジェクト3本柱の1つに【ウォーカブルシティの推進】を明記

目的

都市空間を車中心から人間中心へと転換させ、
歩かざるまち※₁をつくり、人々の暮らしをより良くしていくため

※₁「歩かざるまち」…歩いて楽しいといった歩行だけでなく、
自転車や公共交通機関等の利用も含めた、自家用車に過度に依存しないまち

対象範囲

札幌市全域※₂
(主にパブリックスペース)

目標年次

2045年

※₂「パブリックスペース」…道路、公園、広場等の公共的空間
(民間所有の公開空地を含む)

本市の都市課題を、「歩かざるまち」の観点から捉え直し、他都市の取組事例とともに整理します。

健康(ウェルネス)

安全・安心

交流・にぎわい

移 動

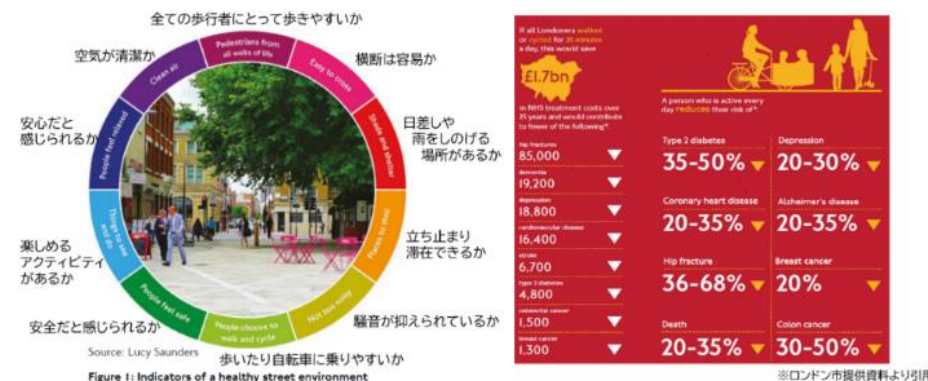
環 境

① 健康（ウェルネス）

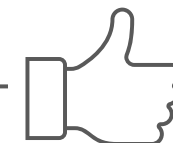
課題

札幌市の健康寿命は、他の政令市と比較して短く、身近な運動である歩行等の身体的活動を増やすことが課題

取組事例



ロンドンでは健康街路整備等により1日20分の身体活動増を目指す政策を実施し、生活習慣病や死亡リスク低下を推進



② 安全・安心

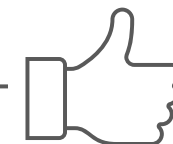
課題

近年、増加がみられる自転車と歩行者の事故対策や、子どもを守る都市環境の構築が課題

取組事例



バルセロナでは、道路を歩行者中心に再構成する「スーパーストリート」政策により歩行者空間が大幅に増加し、安全性が向上



③ 交流・にぎわい

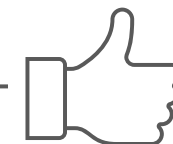
課題

人口減少や高齢化、町内会の加入率低下が進む中で、地域活動の担い手確保や、交流機会創出が課題

取組事例



ニューヨークでは、タイムズスクエア前の街路空間を広場化することにより、歩行者数が約11%増加し、交流促進効果にも寄与

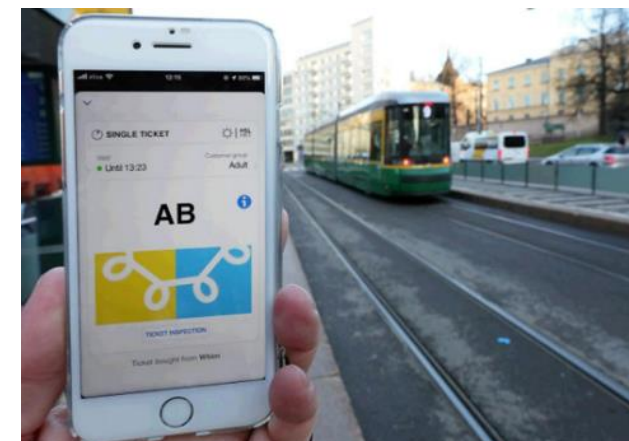


④ 移動

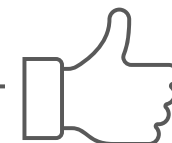
課題

障がいを抱える方々や運転免許を持たない方々、観光で訪れる方々も含めた、誰もが円滑に移動できる公平性の確保が課題

取組事例



ヘルシンキでは、MaaSアプリ等により、複数の交通手段を一元化し、誰もが適切な移動手段を選択し易くする取組みを推進



⑤ 環境

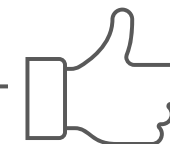
課題

2050年までのゼロカーボンシティ達成に向けて、移動の脱炭素化や都市緑化の推進、コンパクトな都市づくりが課題

取組事例



コペンハーゲンでは、自転車レーン整備や公共交通のEV化、都市緑化と一体となったコンパクトで持続可能な都市構造の形成を推進



市民参加

検討段階から幅広く市民参加機会を設けるため、サッポロウォーカブルプロジェクトと題して、市民ワークショップ、シンポジウム、市民公募型実証実験やフィールドワークを実施しました。



平 岸



宮の沢



真駒内



成果報告・市民WS



新さっぽろ



サッポロウォーカブルシンポジウム2024



偕楽園緑地

外部検討委員会

国内外の都市政策に精通した学識経験者や民間実践者など、7名で構成される「札幌市ウォーカブルビジョン策定検討委員会」を設置し、全5回（予定）に渡って多角的な観点からご助言をいただきました。



推進本部会議

多岐に渡る関係部門と連携して将来ビジョンを検討する目的で、「札幌市ウォーカブル推進本部会議（本部長：天野副市長）」を設置し、健康、交通、観光、景観、都市計画等、庁内一丸となって議論しました。





本ビジョン策定の背景や位置付け、多岐に渡る都市課題や市民意見等を踏まえた結果、あらためてパブリックスペースの持つ価値を見直し、都市空間を「歩かざるまち」に転換することで、市民の暮らしそのものをより良くしていくことが重要



都市空間における既存の価値観を転換するため、

札幌独自の新たな都市空間コンセプトを設定



第1章 策定の背景と目的



第2章 目指すまちの姿



第3章 具体的な取組、手法



第4章 推進体制、支援策

札幌らしく、
四季を通じて
歩きたくなる



歩くことが楽しく、
健康に暮らせる

Well-Moving City SAPPORO



居心地が良く、
自分らしくいられる
居場所がある

誰もが安心して、
円滑に移動できる



環境に優しく、
みどりとともに暮らせる



春夏秋冬、地上も地下も、ここに住む市民はもちろん、一時的な来訪者でも、
いつでもどこでも誰もが心地よく、心も一緒に動くまち、札幌。

「Well-Moving City SAPPORO」を明確に推進するため、重要な要素を5つに分類し、重点方針として設定します。さらに、5つの重点方針について評価する手法を今後検討します。

心も一緒に動くまち、札幌



1 歩くことが楽しく、健康に暮らせる

2 居心地が良く、自分らしくいられる居場所がある

3 札幌らしく、四季を通じて歩きたくなる

4 誰もが安心して、円滑に移動できる

5 環境に優しく、みどりとともに暮らせる

都心の目指す姿



- #沿道施設と一体となった賑わい空間
- #新たな公共交通による回遊性向上
- #観光客に優しい多言語案内サイン
- #安全で快適な自転車通行空間



- #雪と光を生かした札幌特有の景観
- #思い思いに雪と触れ合える空間

地域交流拠点の目指す姿

「行きも帰りも寄り道せずにはられない、
にぎわい、出会いのターミナル」



- #偶然の出会いが生まれる広場空間
- #エリマネ団体等によるイベント活用
- #滞留を生むベンチや植栽、アート
- #誰もが移動しやすいバリアフリー空間

「快適に移動ができ、待ち時間さえ
楽しんでいる風景（夏／夕方）」



- #地上・地下をスムーズに移動できる
- #高架下を活用した賑わい空間

住宅市街地の目指す姿

「自分らしく、気兼ねなく、出かけ愉しむ、
自然が彩る心地よい暮らし」



- #自然に触れ心地よく歩ける散歩道
- #誰もが安全に自分らしくいられる公園
- #歴史的建造物や景観資源の活用
- #モビリティ・ハブによる交通アクセス

「子どもも、親も、安心して歩ける
通学路の風景（夏／朝方）」



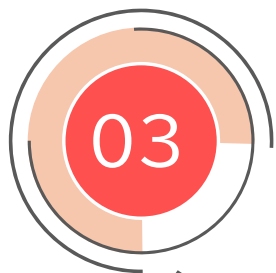
- #事故危険性が低い子ども中心の空間
- #地域住民とつくる安全・安心な空間



第1章 策定の背景と目的



第2章 目指すまちの姿



第3章 具体的な取組、手法



第4章 推進体制、支援策

「Well-Moving City SAPPORO」の実現に向けて「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」各エリアにおける取組みや手法例を、5つの重点方針ごとに整理します。

心も一緒に動くまち、札幌



【都心】



【地域交流拠点】



【住宅市街地】





歩くことが楽しく、
健康に暮らせる

都 心

建物低層部等のにぎわい用途導入や
休憩・滞在空間整備

など

地域交流拠点

健康活動ができる広場空間の整備・活用

など

住宅市街地

地域の魅力を生かした
ウォーキングマップの作成

など

※ 他のエリアとまたがる取組みも含まれます。



都 心

季節や天候を問わず利用できる
オープンスペース整備、活用

など

地域交流拠点

交流と偶然の出会いを生む
オープンスペース整備、活用

など

住宅市街地

誰もが自分らしく居られる
身近な公園の整備、活用

など

※ 他のエリアとまたがる取組みも含まれます。

札幌らしく、
四季を通じて
歩きたくなる



都 心

四季を通じて快適に移動できる
地上・地下の重層的な歩行ネットワーク など

地域交流拠点

地域によるスノーキャンドル設置等、
冬季景観向上の取組み など

住宅市街地

河川空間を活用した
にぎわい空間創出イベント など

※ 他のエリアとまたがる取組みも含まれます。



都 心

道路空間再配分等による
歩行者、自転車通行空間確保

など

地域交流拠点

地下鉄駅バリアフリー経路の複数化

など

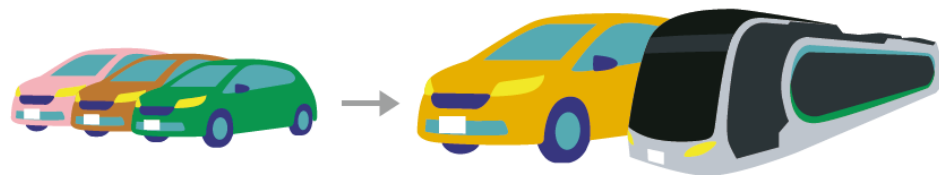
住宅市街地

車両速度抑制等、生活道路における
人優先の空間整備

など

※ 他のエリアとまたがる取組みも含まれます。

環境に優しく、
みどりとともに暮らせる



都 心

新たな公共交通システムの導入検討

など

地域交流拠点

民間開発等との連動による

屋内外の緑地空間創出

など

住宅市街地

地域まちづくり団体や

町内会等による緑化・美化活動

など

※ 他のエリアとまたがる取組みも含まれます。

「Well-Moving City SAPPORO」の実現に向けて、「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」エリアから、それぞれリーディングプロジェクトを位置付け、先行的に取り組を進めます。



大通公園周辺

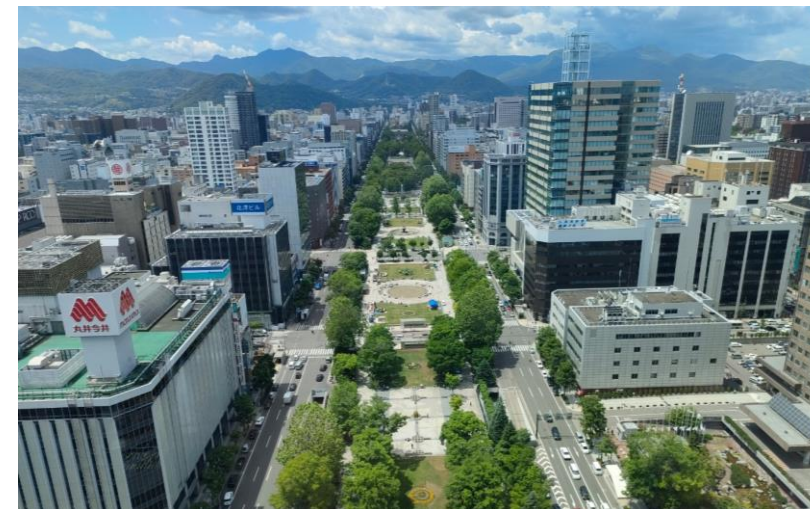
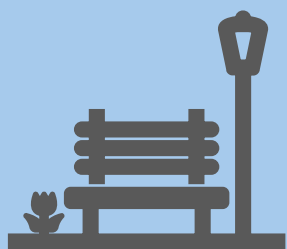


真駒内駅前地区



本郷商店街

「大通公園周辺」



平成元年の再整備から30年以上が経過し、施設の老朽化が進むとともに公園に求められる役割も変化していることから、魅力ある公園づくりに向けた検討を進めています。

また、街区・道路・公園の一体感がある居心地がよく歩きたくなる空間形成に向けた検討を進めます。

「真駒内駅前地区」



駅前地区において、都市機能の集積や快適な歩行空間の創出を図るなど、南区全体の魅力向上に寄与する取組みを進めます。

また、駅からの人の流れを真駒内地域の各地へ誘導することにより、回遊性を向上させるなど、周辺地区への波及・展開を目指します。

「本郷商店街」



札幌市初のショッピング・モール事業（道路整備）にて整備した滞留空間等、歩行者に配慮した取組みを行っています。

今後は、札幌市初の「歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）」指定も見据え、商店街とともに地域ニーズを踏まえたにぎわいの創出について検討します。



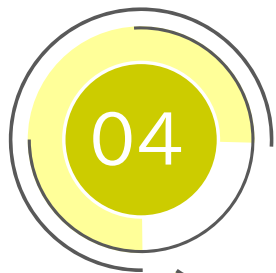
第1章 策定の背景と目的



第2章 目指すまちの姿



第3章 具体的な取組、手法



第4章 推進体制、支援策



産学官民の共創

「Well-Moving City SAPPORO」の実現には、行政主導のみで実施することなく、産学官民の強みを生かし合う「共創」が重要です。

また、パブリックスペースと一口に言っても、その特性や規模は様々であることから、対話と実践を通じて共創関係を構築する産学官民共創プラットフォーム（共創を支援する場や仕組み）の設置を検討します。



【民間企業等】

- ・ 民間施設等における低層部の賑わいや良質なオープンスペースの整備、運営
- ・ 公開空地等、公共的空間の積極的な活用
- ・ エリアマネジメント等、地域まちづくりへの主体的な参加

産



【大学・高校等】

- ・ 大学ゼミや学生団体によるまちづくり参画
- ・ エリアマネジメント等、地域まちづくりへの主体的な参加
- ・ 都市政策等に係る共同研究

学



【行政】

- ・ 推進計画の策定と計画的なハード整備
- ・ 横断的な推進体制構築と推進フローの明確化
- ・ データの収集、オープンデータ化
- ・ 規制緩和、支援制度の構築・運用
- ・ 空間活用×官民共創に係る人材育成

官



【地域住民等】

- ・ 道路、公園、広場等の積極的な活用
- ・ エリアマネジメント等、地域まちづくりへの主体的な参加
- ・ 公共交通機関等の積極的な利活用

民



産学官民の「共創」を進めていく上で、特に行政が実施することで効果を発揮する支援策を検討します。

令和6年度に実施した公募型実証実験の終了後、実施団体を集めて開催したワークショップ等で得られたフィードバックを中心に、以下の3軸について、支援策の構築・運用検討を進めていきます。

<整備／活用>

【新規】

- ・回遊や滞留機能の向上に資する取り組みへの助成

- ・「歩行者利便増進道路(通称:ほこみち)」制度等の導入

<手続き／許認可>

【新規】

- ・公共的空間活用ガイドラインの作成

- ・上記に係る申請手続き簡素化
- ・空間活用要件明確化(緩和)

<担い手確保／育成>

【新規】

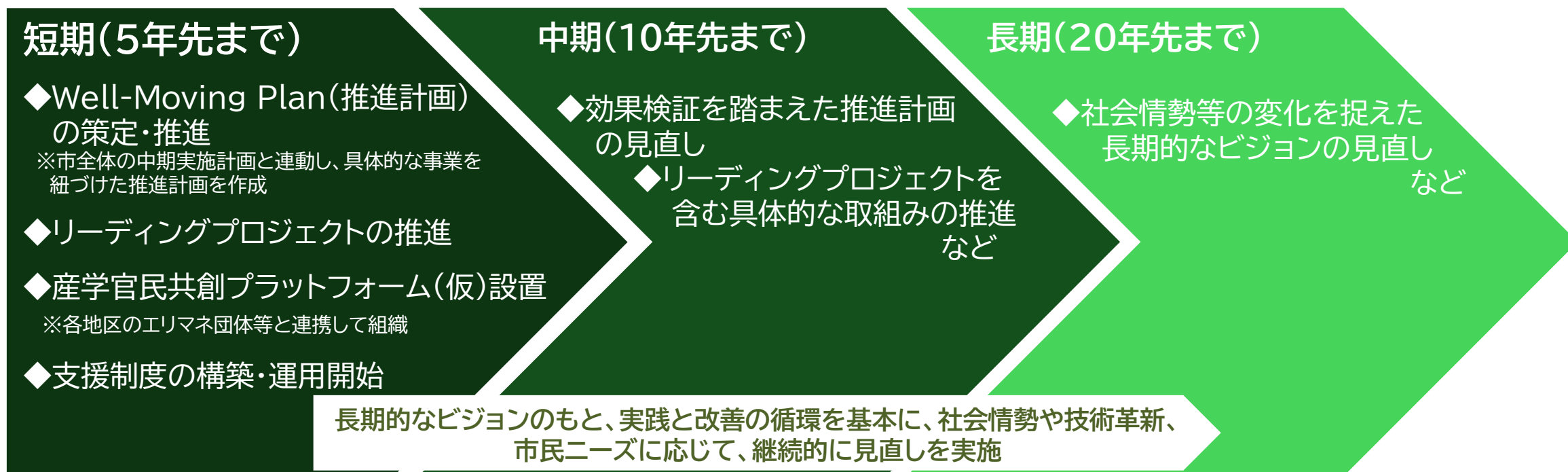
- ・公共的空間活用人材の育成

- ・都市空間を活用した教育プログラムの実施(探求学習との連携等)

3 今後のロードマップ

本ビジョンは、令和8年（2026年）から令和27年（2045年）までの20年間を見据えた長期的な内容であり、実現に向けては、社会情勢や技術革新の変化に柔軟に対応しながら、段階的・戦略的に推進していく必要があります。

したがって、計画期間を「短期」、「中期」、「長期」に区分し、それぞれのフェーズに応じた取組みを明確化します。





ご清聴ありがとうございました！